

第 24 回富士山世界文化遺産学術委員会における主な意見 (2 月 12 日開催)

(議事 1) 来訪者管理計画 (指標・水準) の見直し

- ・外国人登山者の野宿・軽装等、安全対策の不十分さが、浮き彫りになっており、義務やルールを明確に提示していく必要がある。
- ・10 年の観測結果は評価されるべき。実績が上下している指標があるが、実績が達成されていないのは指標設定の問題というより、今後どのような対策に繋げるべきかが重要である。

(報告 2) 富士山包括的保存管理計画の改定

- ・今回の時点修正について異論はない。
- ・今後、包括的保存管理計画やビジョン等各種戦略等の見直しを行うときに、用語や各種戦略の優先順位を見直すべき。

(議事 3) 富士山下山道退避壕設置に係る遺産影響評価書 (案)

- ・登山者が夜間や早朝にシェルターを休憩所や宿泊場所として利用される可能性がある。

(報告 1) 来夏の富士山に係る取組

- ・事前学習等の入山管理システムについては多言語対応にするべき。

(報告 2) 国道 138 号新屋拡幅に係る遺産影響評価

- ・特に意見なし。

(報告 3) 富士山登山鉄道構想

- ・富士スバルラインへの一般車両の進入制限の手段については、適用法令を十分研究すべき。